

MACF 礼拝映像・説教要旨

映像はこちらです

<https://youtu.be/WkUkVDxIWKI>

2020.08.30

「罪の奴隷からの解放」

ローマの信徒への手紙 6章 6節～14節

6:6 わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。

6:7 死んだ者は、罪から解放されています。

6:8 わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。

6:9 そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。

死は、もはやキリストを支配しません。

6:10 キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。

6:11 このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

6:12 従って、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。

6:13 また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。

かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。

6:14 なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。

+++++

1) 十字架の意味

パウロはイエス様の十字架を私たちの「解放」「救い」に重ねて教えています。イエス様の十字架の死は「罪の赦し」と「神のいのちを受け取りなおす」ためのものだと教えています。

そこには、死からの解放、罪の支配からの解放、そして神のいのちに生きるための力が提供されています。イエス様のいのちの中に置かれている私たちは、それによって肉のいのちを超えた「霊的ないのち」を受け取りつつ生きられるのです。

2) 罪に対して死に、神に対して生きる

6:11 このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

6:12 従って、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。

6:13 また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。

かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。

ここにある「罪に対して死んでいる」という表現ですが、「罪の力」がもはや「あなたと神との関係を壊すものにならない」という意味があります。

私たちは今までと同じように罪からの誘惑を受けますし罪を犯すこともあります。それは可能です。アダム性はずっと生きている間、持っているのです。

でも、そういう私たちではあっても、「罪の全部」の処分はすでにキリストにおいて処理済みになっているというのです。

あなたの今までの罪も、これからの罪もすべて処理済み、決済済みなのだということです。イエス様の十字架は、すべての人の罪の全ての処理を行うために十分なものだったのです。その中に私も、あなたもいるのです。

考えられないほど、ありがたい話です。

だから、極論すれば、理論的には、どういう生き方をしても、救いは届くということになるのです。

ただし、神様は私たちの心に気づきをあたえ、処理済みにされた「新鮮な心を維持しつつ丁寧に生きるように」助けてくださいます。

それまでとは違う生き方があることを神様は気づかせてくださいます。

3) 神にささげつつ生きる

そこでパウロは生き方について提案しています。

6:13 また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。

かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。

++

神様は私たちの内側に気づきを与え、意欲を与え、いやいやながらではなくむしろ喜んで「良いこと」に励む方向性を開いてくださいます。

かつては、神との関係において死んだものだったのに、福音によっていのちが通い合うようになり、神の愛をさらに深く知りたいと思えるようになり、

他者の存在が大切と感じられるようになり、野の花を見て美しいと思えるようになってきたとしたら、それは「死からのちに移されたから」こそそれが起こっているのだと思います。

「神にささげる」ということについても、修道士になるとか牧師になるということだけを考える必要はなく、むしろ、自分の存在は神によって成立しているのだとうなづくことが一番大事なことだと思います。

「きょうをささげる」という小冊子の表紙にこう書いてあります

「1 日の始まりの時に 神とそして出会う人々に
きょうのあなたをささげ

1 日を閉じる時に 神とそして出会った人々に

ありがとう、ごめんなさい、よろしくおねがいしますと心の中で語りかける日々を重ねてまいりましょう。」

毎日、神にいのちを託されていきている、生かされていることを自覚しつつ生きればよいのです。

4) 支配されることはないので、やり直しは OK

6:13 また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。

かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。

6:14 なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。

++

私たちは「神の恵みの下」に生かされています。神の無限の愛、無償の愛の中に抱かれて生かされているのです。

私たちは順調な時には、神に捧げつつ生きることが楽しく感じ不調になると神に捧げるなどということは、無駄ではないかと感じることさえあります。しかし、神の恵みは不変であり、愛なる神は変わることはありません。心変わりは人間にはありますが、神にはないのです。

ですから、例えば、失敗した時は、やり直せば良いのです。どこに立ち戻るかといえば、洗礼における「キリストの十字架と復活」との合一の場に立ち戻って、何度でも何回でもやりなおせば良いのです。

「私のようなものは神様は絶対赦してはくださらない」などと勝手に断定したり、ふてくされてしまうことがないように心からお願いします。

赦しはあり、回復への道はあるはずなのです。

あなたは、罪の奴隷から解放され、恵みの下に生かされているからです。

恵みの下に置かれているという事実は、私たちの状況のいかにかわらず永遠的に、真実です。

だから、毎日、新しい心で「やり直し」「生き直し」をしながらその日、その日の歩みを神に捧げ、神と共に生きていることを気づかされつつ過ごすことができたら、それでよいのです。

祝福がありますように。